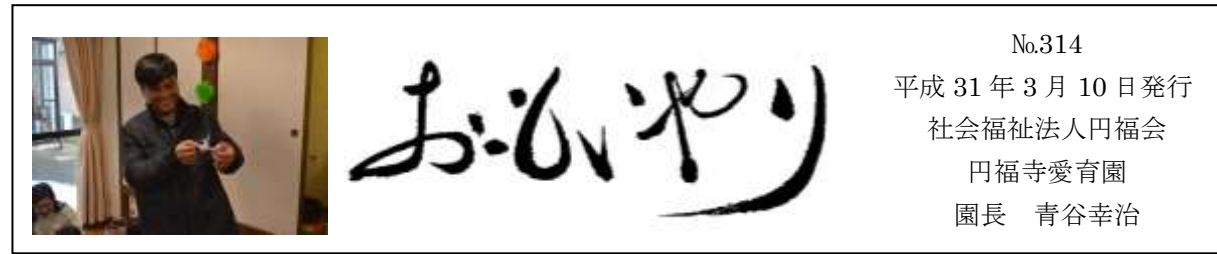


カンボジアよりキムさん来園され子どもたちと交流しました。折り鶴を折り、日本の文化を紹介。



難しい仕事

理事長 藤本光世

今年度も一年が経ち、終わろうとしている。

四月に入社した新任職員も一年間の業務を経験した。経験して入社前のイメージと、働いてみた実際と同じだろうか。

だれもが入社前のイメージとは全く違うことを話してくれる。

調理で仕事をしていて子どもたちを見ていたはずの、あるいはいろいろな行事に調理職員として参加していたはずであっても、直接処遇職員として子どもたちと係わり、思っていたことと実際はひどく異なることを話してくれる。

私は、児童養護施設の仕事はとっても難しい仕事であることを知っている。だから、難しい仕事を「難しい」と正直に話してくれる職員を信用する。逆に、自分はこのようにやっているとか、もっとうすればいいのか、職場の何が足りないだとか、そんなことを滔々と話す職員は信用しないし、子どもをダメにして、職場を壊すのではないかと心配する。

それは、この仕事を何年も経験した職員でも、あるいは指導的な立場にある職員でも同じなのである。何年たっても、どんな立場にいても、この仕事の難しさは常に付きまわっているのである。そのことに謙虚になれない人は、「子どものため」と言いながらも実際は「自分のため」に仕事をしているのである。それが見え、感じる職員は、残念ながら信頼できない。

職員はどう思っているか分からないが、生まれた時から集団生活の中で育った私には、他人のそのような心が見えてしまうのである。感じてしまうのである。

円福友の会東京支局長で小宮コンサルタツの小宮一慶氏が、毎年 8 月 29 日に開催していただいている円福友の会チャリティ講演会で「仕事」＝「心」×「能力」と話された。「能力」は「+」しかない。ある人は力があると言う。いろいろなことができると言う。学習するとたくさんことができるようになる。と言うように、できることが増える。それが「+」と言うことである。ところが「心」は「-」（悪い心）から「+」（良い心）までである。「-」の心に大きな能力が掛けられたら、その人のすることは、大きな災いをもたらすであろう。

この「心」の部分の磨き続けることが、児童養護施設の仕事である。私は「能力」は小さくても

良いと思っている。「おそろおそろ」でも良いと思っている。良い「心」があれば、「能力」が小さくても災いにはならない。ところが「-」の心では、やることなすことすべて愛育園の子育てに悪い影響をもたらす。「能力」が大きいほど災いは大きい。だから児童養護施設の仕事に「能力」はあまり問われないのである。

児童養護施設の仕事の難しさは職員の「心」が問われていることにある。なぜかと言うと子どもの「心」を立派にする仕事だからである。「心」は「心」でしか交流することはできない。表面的な交流はすぐにばれる。すぐに子供に見透かされる。

私は、四月の職員会で職員に長く勤めて欲しいところをお願いした。その言葉の根底には自らの「心と向き合って」「謙虚になって」がある。一年間の経験でそのことが身に沁みただけではないか。そうあってほしい。そして、自分の心の変革に取り組んでほしい。そう思う。心磨きこそ、児童養護施設の職員の資質に最も重要なことだから。

いつも職員に語りかけている。「心磨き」が問われている職場とは、なんと素晴らしい職場ではないだろうか。ほとんどの職場ではそこまで問われないのである。「心」は深いところにしまって表面的に勝負できるのである。児童養護施設の仕事はそうはいかない。だからこの仕事は、逆に大きな感動と幸せをもたらすのである。職員は、このことに誇りを持って欲しい。「誇り」を持てるからこそ長く勤められる、そのような職員であってほしいと願う。

新しい年度が迫っている。今年の終決算もしなければならぬ。三月は忙しい。

高校受験

園長 青谷幸治

3 月に入り、いよいよ高校後期選抜の試験が始まります。私自身も 30 年前を思い出します。中学生時代「進路」とは、高校に行くことだと思っていました。ですから高校選択は、行きたい高校に努力していく、将来を考えながら決めるのではなく、今の実力でいける高校を選んでいくように思います。「本当にそれで良かったのか？」後悔はしていませんが今更ですが思うところがあります。本来の進路とは「将来どんな仕事をしたいのか？」「働くとは何か？」をできるだけ早い時期に明確にしていく必要があったなあと思います。

愛育園の養育の目的は「自立」です。自分の進路は自分で選択しなければなりません。子ども一人一人の学力、特性などを見極めながら進路決定をしていく必要があります。子ども個々の実力もありますが、できる限り努力し取り組むことを支援しています。そして子どもたちには園内で自然と自らの夢を語り、そして今何をすべきかを具体的に話し合う機会がたくさんあります。将来の活躍している自分をイメージできる子どもたちが増えてきました。先日、俳優で仏教にも精通している滝田栄さんが子どもたちと交流していただきました。そのときにインドのスラム街に住む子どもたちに教育を与え、貧しい生活から夢や希望を持って医者になったり、政治家を目指す子どもたちが

いることを聞きました。滝田さん自身も俳優になりたいという思いを持ち続け、ラーメン屋の配達で生活をしてきたと言っていました。「夢を持つこと。夢を叶えるためには何でも頑張れる。恥ずかしいことじゃない」と力強く語っていただきました。私自身も忘れていたものを取り戻した感じがしました。子どもたちも滝田さんの熱意や迫力を感じたと思います。その後、滝田さんへのお礼の手紙には、それぞれ自分の夢を全員が書いていました。滝田さんからも「夢が叶ったら教えてね」という思いに子どもたちの文章にも熱がこもっていました。滝田さんの言葉の重みが子どもたちは、やる気になりました。滝田さんありがとうございました。

いよいよ高校3年生は卒園です。そして現2年生は進路選択の時期になりました。子どもたちには愛育園を出た後、ささやかで平凡な生活でもいい、まじめにコツコツと仕事に取り組み人並の幸せを手にしてほしいと願っています。

箸りんびっく

主任保育士 石崎早織

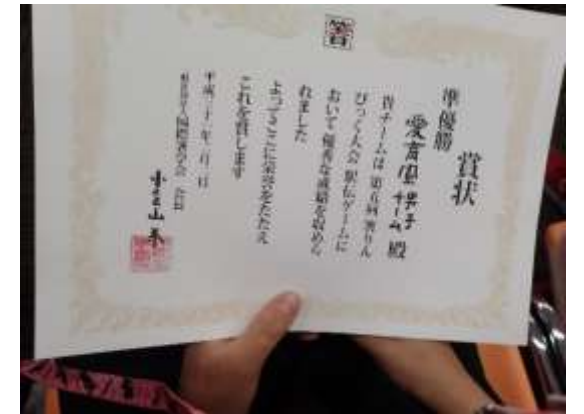
2月2日に行われた箸リンピックに円福寺愛育園の子どもたちと2年ぶりに参加してきました。今までは子どもたちの中から5名の選手を選んできましたが、今年は10名の子どもを代表で選び大会に参加してきました。前回の大会に参加した子もいれば、初めて参加する子も多く、ドキドキわくわくの中みんなで埼玉県へ向かいました。会場にはたくさんの参加者がいて、みんな少しずつ緊張した表情に変わっていききました。個人戦では自分の持っている力をすべて出し切ろうと一生懸命頑張っている姿があり、自分の出番でない時は仲間を一生懸命応援してくれる姿もあり、円福寺愛育園のみんなと心をつなぐことが出来ました。団体戦ではまさかの決勝戦で愛育園チーム同士で戦うことになり、まごころチームとあおぞらチームに分かれ戦いました。最終的にはまごころチームが勝ちましたが、両チームとも最後まで頑張れて本当に良かったです。また個人戦では優勝から3位まで愛育園の子どもたちが表彰されました！本当に良かったです。そして何より嬉しいのは、箸学会の方々が毎年愛育園の箸ピー大会に参加して下さることもあり、子どもたちの成長を感じてくれることです。「もう〇〇さんはあんなに大きくなったの!？」など私たちと一緒に成長を見守ってくれているかことにととても感謝しています。また子どもたちもたくさんの方々と触れ合うことで、会話の仕方や、接し方を学ぶこともでき本当によい経験となっています。いよいよ来年度は記念すべき第10回の箸ピー大会が行われます。また一年後箸ピーを通して子どもたちの成長が見られることを楽しみにしたいと思います。



第5回 箸りんびっく大会

あおぞら 倉島

2月2日に国際箸学会様が主催する「箸りんびっく大会」へ愛育園の代表10名が出場してきました。今回の参加人数は約50名。その中で愛育園の子たちは最年少チームでの参加で、周りには大人の方たちばかりでした。少し緊張しているところが見られましたが、いざ競技が始まると、愛育園の子たちは、「異彩」という言葉が合うのでしょうか。周りの大人たちが思わず「おー!」「すごい!」と言ってしまうような、苦笑いを浮かべてしまうような速さで豆を運んでいました。愛育園の子たちの、その豆を運ぶ姿を見て、多くの人が写真を撮ったり、動画に収めたりとしていて、見ている私としては、凄く鼻が高く、誇らしく思えました。結果は、個人戦上位のほとんどを愛育園の子たちが独占し、見事、小学5年生のY君が優勝、中学2年生のHさんが準優勝、同じく中学2年生のK君が三位となることができました。他の子もよく頑張りました。自己ベストを更新した子もいました。団体戦では、愛育園女子チームと男子チームでエントリーし、こちらも女子チームが優勝、男子チームが準優勝という輝かしい結果となりました。今回、開催場所が埼玉県ということもあり、子ども達にとってはいい思い出になったのではないかなと思います。日々の生活をしっかりやっているからこそ、こういう経験ができ、また来年も頑張ろうと思ってくれたらと思います。園に帰ってきたときには、遅い時間にも関わらず、園のみんなが起きていてくれて、「おめでとう!」と祝福してくれました。折り紙で作ったメダルをもらう子ども達や、あげる子供たちの姿を見るとやっぱり愛育園はいいなと感じるものがありました。また来年も参加できるように子どもと一緒に頑張りたいと思います。



箸リンピック

児童感想

中学1年生 H君

二月二日に箸リンピックへ行きました。サービスエリアで練習したりしましたが、恥ずかしさはありませんでした。本番では、最初富澤先生がやっていたのを見て、僕も頑張ろうと思いました。一回目はあまり良い結果は出なかったのですが、二回目は良い記録が出て嬉しかった



たです。また、予選では三位でしたが、決勝では、ダメな結果だったので、次は頑張りたいと思いました。

小学5年生 Rさん

二月二日に埼玉にある箸リンピックに行きました。私は初めて行ったので緊張しました。12月の終わりぐらいから、箸ピーの練習をしました。本番あまり良い記録は出せなかったけど、頑張れたので良かったです。団体戦では、まごころチームが優勝しました。嬉しかったです。またいけるように頑張りたいです。



スキー行事

あおぞらホーム保育士 山田 忍

2月23日、スキー行事がありました。子ども達も職員もとても楽しみにしており、行く前からスキーの話やスノーボードの話で盛り上がり良い雰囲気のまま当日を迎える事ができました。部活などがあつた高校生達は残念ながら参加できませんでしたが小学生、中学生達は全員参加することが出来て本当に良かったです、どの子ども達もとても楽しかったようで、ケガもなく全員無事に帰ってこれました。



て園全体で一つになっていきたいと思ひます。

自分は体のあちこちが痛く何日も引きずりましたが子ども達は翌日から部活のマラソン大会に参加したりと体力の凄さに驚きました、当初、学校になかなか行かれていなかった子が行事に参加出来るのか心配していましたがその子も直前には登校することが出来、起床時間やお参りもしっかりと取り組めて無事参加出来たことがうれしかったです。スキー行事を通して子ども達と関わる機会も増えた事も良かったです、また、次の行事に向けて

スキー行事

まごころホーム 橋本 雅

2月23日に、スキーやスノーボードをしに飯綱に行きました。

私は、高校生と同じ班でした。まず、なだらかなコースのリフトに乗り、滑りました。子ども達はとても上手に滑っていましたが、不安もあったようで滑り終えると「怖かったけど楽しかった、沢山滑ろう」と言っていました。私自身、スキーの経験が少なく不安でしたが何とか滑りきることができホットしました。いちど滑ると怖さがなくなり、凄く楽しく滑ることができました。なだらかなコースを何本も滑り自信が付いたようでスムーズに滑っていました。そんな中、苦戦している子を見つけると近くに行って「頑張れ」と応援したり、板が外れていると持って行ってあげたり、転んでいる所を見ると手を差し伸べ立てるようにサポートし助けてあげる姿があり、とても凄いなと感じました。沢山練習し自信が付いた所で、少し急なコースにチャレンジしました。最初のコースよりも長く、斜面が少し急な所がいくつかありました。「怖い、滑れない」と言っていたのですが、転んでもすぐ立ち上がりゆっくり滑って降りてくることができました。子ども達の顔は、とても笑顔でした。「凄く楽しい、もっと沢山滑ろう」と言っていました。沢山滑り、お昼休憩をとり午後にも滑りました。午前中以上に午後はとても上達しスラスラ滑っていて凄いなとおもいました。何事にも挑戦する気持ちは大切だなと思いました。



行事を通して何事にも挑戦する気持ちや、諦めずに練習すれば達成感が味わえることを学びました。また、子ども達の良い所を沢山見ることができました。行事を通して学んだことを生かして生活に繋げていってほしいです。

とても楽しい行事でした。

スキー行事 児童感想

2月23日に飯綱にスキーをしにきました。

最初は、滑り方の練習をしてからリフトに乗りました。リフトに乗るのは初めてだったけど、楽しかったです。リフトから降りて滑るときは緊張したけど、滑ることができました。お昼は、焼きカレーを食べました。美味しかったです。

今回は、10回滑ることができました。帰ってきたら筋肉痛でした



が、凄く楽しかったです。また行きたいです。

(小3、K・F)



2月23日に飯綱スキー場に行きました。

まず、滑り方の練習をしました。その後リフトに乗りました。降りる時、転んでしまいとても足が痛かったです。滑っている時も転びお尻が痛かったがすぐに立ち上がり滑ることができました。1回目は怖かったけど、何度も練習すると怖くなくなり転ばずに滑れるようになり嬉しかったです。だが、出来ないことがありました。右、左にターンが出来ないことです。教えてもらいながら何度も練習しました。沢山練習して出来るようになり凄く嬉しかったです。午後も沢山滑ることが出来ました。とても楽しかったです。いい一日でした。

(小4、T・Y)

2月23日にスキーをしに、飯綱リゾートに行きました。今回の班は、高校生と一緒に班でした。初めは、リフトに乗って滑りました。何回もやると曲がるできるようになりました。凄く楽しかったです。少し滑ったら、小学生に教えてあげながら一緒に滑りました。怖がっていましたが、何とか滑ることが出来ました。沢山練習すると、上達した子が多くて良かったです。午後も滑りました。一緒に滑った小学生が何回も何回もリフトに乗って滑っていてビックリしました。

今回のスキー行事も楽しかったです。また行けるように頑張りたいです。

(高1、Y・O)

東信州雪合戦大会

あおぞらホーム 近藤誠志郎

2月17日(日)、白樺湖にある池の平ホテルの特設会場で開催されました「第8回東信州雪合戦大会」に参加してきました。この大会には去年に引き続き2年連続の出場になり、今年も円福寺愛育園からA、Bチームと2チームで参加してきました。この大会に向けて1月中旬から一か月以上、愛育園の体育館や地域の体育館を借り練習を積んできました。子ども達の中には雪合戦の大会に出場するのが3年目の子がいれば、今回が初めての参加となる子もいました。練習の中で、経験のある子が初めての子たちにアドバイスをしたり、大会前日には夜遅くまで練習に励んだり、みんなが切磋琢磨して大会当日を迎えました。去年は予選リーグで敗退して悔しい思いをしており、今年



こそは予選を勝ち抜き決勝リーグに進むという強い気持ちをみんなが持っていました。Aチームは高校生2人、中学生3人、職員から私ともう一人の男性職員の2人というチーム編成でした。まず雪合戦の大会では試合前に行われる雪玉づくりから始まります。雪玉を作る専用の製造機を使い、1ゲーム90個、1試合で最大3ゲーム行われるので合計270個の雪玉を試合前の15分間で作ります。この雪玉づくりがとても

大変な作業で、全員が協力して作っていかないと試合までには間に合いません。また、A、Bチームと2チームあり、雪玉づくりはチーム以外でも人数制限内であれば協力して作っていいというルールになっており、Aの子がBの雪玉づくりを手伝ったりとチームを越えて円福寺愛育園で協力するといった姿もあってやっとのことで雪玉を作り上げました。予選リーグは4チームの総当たり戦となっていました。まず、第1戦は去年の雪合戦大会や他の大会でも出場しているのをよく見る強豪チームでした。試合は一進一退の攻防となりましたが、2ゲームともアウトになった人数が1人の差でゲームを落としてしまい、初戦に負けてしまいました。次こそは勝利しようと望んだ第2戦、相手がどんどんと攻めてくる中、冷静に対処することができ勝利することができました。次は勝利すれば決勝リーグに進めるかもしれないという大事な第3戦。相手との力の差は1試合目の相手同様、同じレベルの相手であり、かなりの接戦となりました。第3セットまでもつれる展開の中、高校生2人の活躍もあり、見事勝利することができリーグを2勝1敗で終えることができました。ただ、1試合目の対戦相手がリーグ内で3勝したため惜しくも決勝リーグには進むことはできませんでした。Bチームも力を出し切りましたが予選を勝ち抜くことはできず、今年も決勝リーグに進むという目標は達成できませんでした。決勝リーグには進めませんでした。試合を重ねるごとにチーム内で次



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

はこうしようと話し合ったり、雪玉づくりでは汗を流して一生懸命にみんなのために体を動かしたりと、みんなが真剣に頑張っている姿を見ることができ良い一日になったと感じます。また、この頑張りを普段の生活や次の行事で見せてもらいたいです。最後になりましたが、大会関係者の皆様ありがとうございました。子どもたちに良い思い出できたことと思います。

東信州雪合戦大会



間に時間が過ぎました。初戦ということもあり子ども達も、職員も観な緊張した様子ではありましたが、試合が始まると勝利に向けてみな精一杯取り組みました。結果は3戦全敗でしたが、何より子ども達は一試合ごとに試合を振り返り次の試合に向けて声を掛け合ったり、他のチームのサポーターや応援にも全力で取り組んだり学びの多い大きな意義のある大会となりました。

『バレンタインチョコ作り』

まごころ保育士 竹内早季

バレンタイン前の恒例行事として、子どもたちと一緒にバレンタインのチョコ作りをしました。2~3週間前からそれぞれ作りたいものを調べて、レシピを見ながら材料やラッピングの数を相談して決めたり、誰にあげるか考えたりと子どもたちもみんなわくわくしていました。ラッピングの買い物に行った時も、たくさんの袋やカップを前に、時間をかけて選んでおり、とても楽しそうでした。そして、2日間それぞれ1班ずつ分かれてチョコ作りをしました。今回は高学年以上が多かったので、自分でできるだけ作ることを目標にしていました。手元にあるレシピを見ながら慣れない行程をこなし、楽しくおしゃべりしながら進めました。自分で作りたい気持ちがあるのですが、私自身心配になってつい手を貸したり口を出したりして子どもから「自分でやるから」と言われるこ

(平成31年3月10日発行 月刊「円福」462号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

ともあり、寂しさと成長の嬉しさを感じました。早く食べたいと味見したがる子もいれば、「見て！」と途中経過を見せてくれる子もいて、とても微笑ましかったです。そして完成し、作ったものをそれぞれ持ち寄ってまごころホームのみなでお茶会を開きました。みんなが一生懸命作ったチョコを食べながら、「おいしいよ」と感想を言い合って穏やかな時間を過ごすことができました。職員や友人に渡して「ありがとう」と言ってもらえてうれしそうな子どもたちをたくさん見ることができたので良かったです。



バレンタインチョコ作り

まごころ 糸賀かなえ



2月10日、11日に2つの班に分かれてバレンタインチョコ作りをしました。お菓子作り当日までに、子どもたちはそれぞれ今年は何を作ろうかな、どれくらいの量にしようかと考え、作り方を調べて、職員と材料を買いに行ったりと準備を進めていました。みんな、とても楽しみにしており、当日もそれぞれが自分の作るお菓子を一生懸命作っていました。途中、思うようにいかなくて「どうしよう…！」と焦っている子どももいましたが、他児や職員の助けも借りながら無事に作り上げることが出来ました。どの子も集中して取り組んでいて、たくさんお友達にあげるために時間がかかった子もいましたが、最後まで丁寧に頑張ってお菓子を仕上げました。おやつにはホームのみなで、その日作ったそれぞれのお菓子を囲んで「すごい！」「おいしい！」と話しながら

おいしく頂きました。普段、お世話になっている他の先生方にも作ったお菓子を渡し、「ありがとう！」と言ってもらえ、作ったみんなも少し恥ずかしそうにしながらもにっこり嬉しそうにしました。食堂を使って作りましたが、いろんな人の協力を得て、みんなで楽しくバレンタインの行事ができたので、感謝の気持ちを持ちつつ、作った人ももらった人も嬉しくなるようなこうした取り組みがまた出来れば良いなと思いました。

茶道体験

まごころ 渡邊梓

2月24日にお寺に招待していただき、お抹茶をいただきました。昨年も小学生を招待していただき、茶道の作法を教わりながら、お抹茶を立てもらい、おいしくいただきましたが、今年は小学生から高校生まで

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

招待していただきました。子どもたちの中にはお抹茶をいただくのが初めてという子もいて、わくわくしながらみんなでお寺に向かいました。始めはおいしいお菓子と立てていただいたお抹茶をいただき、そのあとに子どもも職員も自分でお抹茶を立てさせてもらいました。先生のようにお茶をたてるのは大変でしたが、手首が痛くなるまで茶せんを混ぜました。頑張った分、みんな上手にお茶もたてられ、満足そうでした。自分で立てたお茶は一層おいしく感じられ、子どもたちからも笑顔が溢れていました。なかなか経験することのない茶道ですので、子どもたちにとって貴重な体験になったと思います。ありがとうございました。



あおぞらホーム日より

保育士 石黒玄章

立春が過ぎ、春の足音は確実に聞こえて来ました。今年は暖冬のおかげで、例年の雪掻きも数日行う程度でした。流行したインフルエンザに感染した子供も何名かいましたが、今は風邪もひかず元気に学校に通っています。

2月は箸ピー大会やスキー行事、雪合戦など行事が目白押しで、行事を通じた子ども達の成長を著しく感じます。

2人の高校受験生にとっては、初めて人生の岐路に立つ正念場です。悔いの無いチャレンジを願っています。

あおぞらホームでは今月1人の子どもが卒園します。在園が一番長い子で、いろいろな思い出が詰まった愛育園を巣立っていきます。皆で残りわずかな時間を有意義に過ごし、最高の卒園式で送り出してあげたいと思います。

まごころホーム日より

加藤ゆかり

今年度も残すところ残り1ヶ月となりました。子ども達それぞれが1年の締めくくりをしています。小学生は、2月に最後の参観日、学習発表会がありました。クラスごとに学習のまとめをクイズ形式にして発表したり、保護者への感謝の気持ちを伝えたり、とても良い学習発表会でした。子ども達が頑張って準備してきたことが伝わってきました。中高生は今年度最後のテストが2月に行われました。一人一人がテストに向けて一生懸命テスト勉強に取り組んでいました。良い結果も、

(平成31年3月10日発行 月刊「円福」462号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

納得のいかない結果も真摯に受け止め、今後の学習に生かしてほしいな、と思います。

3月23日には、1年の中で最も大きな行事とも言える卒園式が行われます。まごころホームからは今年度1名の卒園生を送り出します。今まで、年下の子ども達のお手本のように頑張ってきてくれたSさんを気持ちよく送り出せるように、園のみんなで心を込めて準備していきたいと思っています。

調理室日より

調理員 川澄保美

今年の冬は、暖冬と言われていますが、真冬の寒さだったり春の暖かさだったり。天候が目まぐるしく変わり、園でもインフルエンザが流行り出してきました。うがい・手洗い、衛生面での徹底管理。そして栄養食にも気を配ります。暖かい食堂で一人でも病気で欠ける事のないよう心掛けたいと思っています。

2月は

・4人の子供達の誕生日メニュー

(オムライス・スタ丼・ガーリックライス・唐揚げ・うどん)



・節分の特別メニュー
(恵方巻・豚汁)

・受験生の応援メニュー
(トンカツ・マカロニサラダ・イチゴ)

・バレンタインのチョコ作り、、、と。
特別メニューの日が多く子供達も毎回楽しみにしています。



心を満たす食事作りで子供の笑顔が増えれば、私も幸せです。